

2023年5月1日発行

第39号

令和5年

東都岩高会

発行所

長野県岩村田高等学校同窓会関東支部

東都岩高会

〒106-0045 東京都港区麻布十番 4-3-1-1081

TEL : 03-3451-2298

Email : 7249lece@jcom.zaq.ne.jp

東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・群馬・栃木

東都岩高会 総会&懇親会

4年ぶりに開催！

●2023年6月18日(日)

11:00～受付開始 11:30～開会

●銀座ライオン

7丁目店6Fクラシックホール(銀座シックス隣)
中央区銀座7-9-20 電話03-3571-2590

●会費：8000円 学生(専門学校、予備校含む)は無料
事前にお申込み下さい。(～6/10迄)
会費は当日受付でお支払い下さい。

●総会：2022年・2023年の報告・承認・審議、
「東都岩高会のあゆみ」について講演

●懇親会：美味しいビール(未成年はノンアル)と料理を愉しみながら、懐かしい顔や新たな出会い！

先輩・後輩・先生等が入り交じり交歓の輪、最後に会員プロ演奏の校歌を皆で唄い盛り上がり♥

お問合せ等：小林 080-7021-3097

田中 090-7171-8441



ご挨拶

東都岩高会会長 小林

裕

(昭和47年卒業/港区在住)



東都岩高会会員皆様には、お元気
で過ごしのことと存じます。

日頃、当会活動にご協力いただき、
誠にありがとうございます。

さて令和2年(2020年)年初よ

り、中国を発端とした新型感染症の世界的な感染拡大は、三年を経過した現在、ようやくその収束が見え始めてきました。政府は新型感染症を感染症法上の分類を令和5年5月8日に、現在の「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げる方針を決定しました。これによりイベント開催制限等はなく、マスクの着用も緩和されることになります。

一方ロシアによるウクライナ侵攻(侵略?)は2月24日で一年が経過して
もなお、世界各国を巻き込んでその激しさを増す状況です。ウクライナへの人道支援・武器供与やロシアの核兵器使用可能性、ガス・石油等エネルギー資源の高騰が続いています。

私事で恐縮ですが、長野市にある妻

の実家(住人無し)の今年1月分電気代が、何と約9千円(通常月の約2倍)となりました。2人で暮らす東京の我が家の電気代も上がっており、生活への影響大です。

日本国内に目を転じると、円安、五輪不祥事、保育士による園児虐待、食料を含む諸物価高騰、広域組織的凶悪強盗殺人事件等、信じられないような報道が日々なされています。

長い巣ごもり生活でのイライラからか、思わぬ行動に出る人も出てくるのは当然なのかもしれません。

このような中、令和5年度東都岩高会総会・懇親会を今年は「開催」との判断に対し、年初の役員会でご承認をいただきました。柏木慶永前会長時より3年連続の総会・懇親会中止を余儀なくされました。6月18日(日)いつもの「ライオン銀座7丁目店 6階クラシックホール」にて4年ぶりの開催となります。会員の皆様には是非ともご参加の程、お願い申し上げます。

本校同窓会より、佐々木正行同窓会長をはじめ大勢参加いただく予定にしております。

岩村田高校創立100周年を来年に迎えるにあたり、「東都岩高会のあゆみ」をテーマにした講演も予定しています。伝統ある岩高同窓生として誇りをもって、久しぶりに歓談しようではありませんか。若きあの頃に戻って、校歌や学生歌「大浅岳」で盛り上がりましょう。

ご報告ですが、本校同窓会 佐々木会長他のご協力を得て、本校同窓会ホームページ内に「東都岩高会」のページを、昨年11月末に開設いたしました。パソコンやスマホから掲載情報がいつでもご覧になります。是非ご活用いただければ幸いです。

また、若手会員向け「相談室」活動も取り組んでおります。

情報のデジタル化が進み、メール、LINEなどでの情報交換が進む時代になっても、やはり対面での交流やふれあいが必要だと感じます。今年の私のテーマは「外へ、外へ」です。

リモートワークやテレビ会議など、世の中が便利になると人が動かなくなってしまう。

同窓生という年代も仕事も趣味も価値観も違う人が集う貴重な場です。多

くのひと1分でも1秒でも交流を持つてほしいと思います。旧友との久しぶりのおしゃべりや、出会った新顔との楽しい交流も……。ついでに小林にも気軽に声をかけてください。そして東都岩高会活動に対する、ご意見・ご希望もお待ちしております。

◎令和5年度（2023年度）東都岩高会の主な活動は次の通りです。

詳細は、ホームページ（長野県岩村田高等学校同窓会）をご確認ください。

①会報発行 令和5年5月初

②総会・懇親会開催

令和5年6月18日（日）

③長野県高等学校同窓会東京連合会（通称…同窓連）への参加

④本会の活性化（特に女性会員、若手会員の参加）への企画・推進

⑤創立100周年事業 本校同窓会と連携して活動

令和6年（2024年） 母校創立100周年

ご協力よろしくお願いします。



無事卒業式が挙行されました

岩村田高校同窓会長 佐々木 正行

（昭和40年卒業／佐久市平賀在住）



コロナ禍も丸3年になり、もろにその間を過ごした生徒が卒業を迎えました。入学当初からの休校は延長に次ぐ延長で1月半に及び、さらに半月の分散登校を経て通常登校になったのは6月1日、マスクに黙食でとお互いの素顔を見ることができない、本当に普通でない高校生活でありました。

3月1日第75期生の卒業式に参列させてもらいました。来賓は、私とPTA会長と評議員の3名のみです。

卒業式の入退場で、マスクを外した姿を見た時、この3年という時間を思い、胸に迫るものがありました。その姿を写真に収める保護者はなお一層であったと思います。ここ2年テープを流していたのが、吹奏楽班の生演奏で盛り上がり感無量でした。この日は4月中旬の陽気で、青空が祝福してくれているようにでした。

卒業生は193名です。毎年様々な分野で活躍した生徒1名に同窓会で「佐藤寅太郎賞」を差し上げています。この賞は、文武両道を実践し、模範と

なった生徒に対して、卒業時に初代校長を記念し授与するものです。今年度は3組の南澤爽太（みなみざわ そうた）君になりました。学業の成果と共に陸上班の班長としてチームをまとめ、2年次、3年次と連続してインターハイに出場するなど輝かしい成績を残しました。

授与式で南澤君を始めコロナ禍で3年間を過ごした卒業生全員にも授与したいくらいだ、という言葉が口から飛び出してしまいました。これからの人生に幸あれと祈らずにはられません。

さて学校創立100周年まで1年となりました今年事前イベントが開催されます。

また創立100周年記念の募金事業が4月より開始になります。

募集金額7,500万円です。一口5千円からですが、1万円以上ご寄付いただいた方には記念誌を贈呈致します。東都岩高会の皆様、絶大なるご協力とご参加をよろしくお願いいたします。

コロナ禍を超えて

前岩村田高校校長 飯島 由美



同窓生の皆様には本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。コロナ禍はなかなか終息しませんが、学校も少しずつ本来の教育活動を行えるようになってまいりました。特に、秋以降は国の動向に合わせて、多少感染が広がっていても、感染予防対策をしっかりと

間の充実が課題となっています。今後、同窓生の皆様のお力をお借りする場面も多くなるかと思っています。

いう方針が出ましたので、クラスマッチや修学旅行などを従来に近い形で実施することができました。生徒たちが楽しそうに活動する姿を見て、種々の行事も生徒の成長には欠くことのできない重要な教育の要素であることを再認識いたしました。

さて、生徒の進路については現在七割程が四年制大学に進学しています。近年、全国的に推薦等による進学が増える中、本校も推薦による受験が増える傾向にあります。かつての推薦とは異なり、高校における探究学習の成果を求められるため、総合的な探究の時

また、班活動においてはソフトテニス班（女子）が北信越大会に、陸上班が全国総体に出場しました。吹奏楽班は今年度も東海吹奏楽コンクールに出場しB編成部門で念願の金賞に輝きました。演劇班は県三位にあたる優秀賞を受け、次年度の関東サマーフェスティバルへの出場を、美術班も次年度鹿児島県で開催される高総文祭への出品が決定するなど活躍しています。

そして、百周年記念事業の実施に向けて事務局を中心に多くの同窓生の皆様が精力的に準備を進めておられます。今後は生徒の参画について検討を始め、この周年事業を契機として、生徒たち自身が母校の歴史を改めて学び、誇りと自信をもって主体的に岩高の新たなページを刻んでいく者となるよう、学校としても取り組んでまいります。

東都岩高会の皆様には、日頃より、母校の教育に関心を寄せ、ご支援をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

今年度、4月1日に着任いたしました、下島と申します。佐久地区の学校の勤務は初めてであり、地元地区の書店で地図を購入し学校から見える山々の名称や小海線の駅名、位置などに興味をもち地域のことを学んでいるところで

す。過日行われた入学式では佐々木同窓会長様に参加いただき、校長室での懇談の場面では、本校の伝統と同窓会の皆様の活躍、百周年に向けての事業計画とともに東都岩高会の活動や繋がりについてご教示いただきました。新型コロナウイルス感染症の影響のもと、同窓会の活動にも制限があったことと思いますが、今年度は数年ぶりに東都岩高会が開催予定との嬉しいお知らせもお聞きました。

ここ数年、学校の教育活動も様々な

ご挨拶

岩村田高校校長 下島 浩伸



制約を受けてきましたが、本年度は引き続き基本的な感染対策は取りつつも、実施方法等を工夫して可能な限り活動を行う予定であります。新年度のスタートにおいては、生徒の皆さんの感染対策への協力のもと新入生との対面式、校歌練習は全校が一同に会して行い、強歩大会も計画されるなど、少しずつ学校としての動きが戻ってきたところで

来年度の百周年記念事業に向けて、また学校の活動が少しずつ以前の状況に戻りつつある中、東都岩高会の皆様には、今後とも本校の教育活動にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



歴史を見守ってきた桜の古木

東都岩高会のあゆみ

清水 光男

(昭和31年卒／練馬区在住)



2024年の岩高創立100周年にあたって百年誌編纂委員会より「東都岩高会のあゆみ」の記事依頼が来ましたので、良い機会ですので現在調べ得るかぎりのことを以下に纏めました。

東都岩高会は一回生の卒業間もない昭和5年6月に武藤武夫幹事長（S4、旧中第一回卒）の下で本郷春日町の料亭で開かれましたが、会則も決めた立派なものでした。それを本校でも聞き及び急ぎ半年後に岩村田中学同窓会が発足したようです。現在よりも交通・通信事情がはるかに悪い100年近い昔に、故郷を遠く離れて志を抱いて上京して身を立てようとした若者達には、

どうやら身寄りの少ない都会の中で身を寄せ合い相互に協力し合う必要に迫られて作られた会であったようです。しかし当初は開校後年月が浅くまだ卒業生が少なく、会員も未だ若い学生が多く、上京後の生活を心配された先生達も時折出席されていました。いわば互助会と同級会を兼ねたようなもので

あったように思われます。

昭和15年10月皇紀二千六百年の式典が皇居で行われました。佐藤寅太郎初代校長が長年の信濃教育会長として臨席されましたので、その労をねぎらおうと沢村二三男さん（S14・旧中11回卒業）達の在京者26名が先生を囲む会を催されました。

その折に先生から「在京者は多くないのであるから、こういう会を継続して毎年催して先輩・後輩の絆を深め、よき人間関係を樹立してほしい」と要望され、この会を「東都岩中会」と命名して下さいました。

当時沢村さん達はまだ大学生であり毎年本会を続けようとしたましたが、時局が悪化して多くの会員が太平洋戦争の泥沼化により出征されたので、継続が難しくなり戦後に至りました。

昭和28年戦争の荒廃からようやく世の中が落ち着き、同級生や先輩・後輩の所在が分かって来たので、国会議事堂の前の尾崎記念会館（現憲政記念会館）において新生「東都岩高会」を再建することができました。その時200名位が集まり再会の喜びを共にし、楽しく絆を深められました。

今日の東都岩高会の礎を築き上げた先達に敬意と感謝を申し上げたいと思います。

本会の歴代会長と活動のあらましは今回の岩高100周年を契機に別紙の通りまとめました。昭和61年以降は東都岩高会会報を毎年発行しており、今回纏めるに際してはそれが大きく貢献しましたが、なにごんそれ以前の資料が少なく加筆が必要と思われます。欠けた時期の情報・資料等があればお寄せ頂ければ幸いと存じます。

平成以降の活動では以下のことを特筆したいと思います。

- ・平成4年 浅野和男会長と(株)大阪商船三井船舶勤務の神津定剛船長（本会会員S27卒）の御尽力で「ふじ丸」で船上パーティーの本同窓会を開催した。
- ・平成7年 本間道夫会長が長野県高等学校同窓会東京連合会及び東信同窓会連合会の会長となり、ご活躍され本校を大いにアピールされた。
- ・平成16年 本間道夫会長の折、品川プリンスホテルでの開催が台風で中止となる。
- ・平成21年 本会会員拡充方針として

良好な出席会員に対して学年幹事委嘱状を多数発送した。

・平成20年 本同窓会の会場の横断幕を昭和31年卒の染物師鷹野義彦さんにより従来の模造紙から布地に変更・作成して頂いた。

・平成24年 母校に学生歌「大浅岳」歌詞の額（本会会員小山雲涯さん（駿二S37卒）の揮毫による）を寄贈した。

・平成26年 東信同窓連総会にて本会会員小林三男さん（S39卒）のバンドが演奏した。

・平成28年 東京同窓連総会会場で全国高校総合文化祭のイメージソング（歌詞）として採用された在校生2年の桜井双葉さんの「ここに」がBGMとして流された。



大浅岳額装

東都岩高(中)会のあゆみ：1930(昭5)年～

年号	西暦	会長・幹事長/卒年	総会・懇親会の会場	講 演・余 興	講 師 等	備 考
S 5 春	1930	武藤 武夫/S4	大国屋割亭/春日	会則・幹事等の決定		本部岩中同窓会より早く発足(春秋に開催)
秋	1930	武藤 武夫/S4	ハリマヤ喫茶店/神楽坂	卒業論文を書く骨	春原 保	
6 春	1931	足立 修三/S4	ハリマヤ喫茶店/神楽坂	最近の野球班の活躍	佐藤寅太郎	理系方面への進路要望
秋	1931	足立 修三/S4	大国屋割亭/春日	佐藤校長頌徳会報告		
7 春	1933	井出 嘉雄/S4	稲泉園/高田馬場		春 原 先生	
秋	1933	井出 嘉雄/S4	大国屋割亭/春日	送別会		
8	1934		大国屋割亭/春日			
9	1935		楽燕軒/本郷		竹 前 先生	創立10周年
11 春	1936		白十字堂/新宿	渡米遊学歓送会	羽柴 正一	2回卒東大文科、カリフォルニア大へ
12 春	1937				秋山・春原先生	
秋					佐藤寅太郎	本会の会報の示唆
13 春	1938				佐藤寅太郎	
秋				戦死された内山先生追悼	柳澤 次郎	
S 15	1940	沢村二三男/S11		皇紀2600年の式典に招かれた校長の慰労	佐藤寅太郎	岩中創設者・校長・信濃教育会会長：その折に「東都岩中会」と命名
28	1953	沢村二三男/S11	尾崎罌堂記念館/国会前			新生「東都岩高会」の再開
30	1955					旧高女の同窓会(凱風会)と統合
35	1960	小山 恒三/S10				朝日測量設計(株)社長
40	1965	小山 恒三/S10				東信地区高校同窓会連合会設立
44	1969	小山 恒三/S10				新会則の制定
45	1970	小山 恒三/S10				女子部会長が本会副会長になる(一部改正)
48	1973	小山 恒三/S10	高円寺根津会館			
50	1975	小山 恒三/S10	定期総会			
52	1977	小山 恒三/S10	定期総会			
53	1978	小山 恒三/S10	定期総会			
54	1979	小山 恒三/S10	定期総会			
55	1980	小山 恒三/S10	定期総会			
59	1984	小山 恒三/S10				創立60周年
60	1985	小山 恒三/S10	東京大飯店/新宿			東都岩高会報の発行開始
61	1986	小山 恒三/S10	三河屋/中野			
62	1987	小山 恒三/S10	新宿			
63	1988	荻原 嘉雄/S11	京橋会館/銀座			京橋堂(家電・工事)社長
H 元	1989	荻原 嘉雄/S11	京橋会館/銀座			
2	1990	荻原 嘉雄/S11	八峰閣/池袋			
3	1991	荻原 嘉雄/S11	レストラン四季/銀座			
4	1992	浅野 和男/S25	レストラン四季/銀座			(株)ビジネスセンター社長
5	1993	浅野 和男/S25	商船三井 客船ふじ丸			神津定剛船長(S27)
6	1994	浅野 和男/S25	帝国ホテル/東京			
7	1995	本間 道夫/S27	大丸百貨店ルビーホール			
8	1996	本間 道夫/S27	大丸百貨店ルビーホール			
9	1997	本間 道夫/S27	三笠会館/銀座			
10	1998	本間 道夫/S27	東京会館/丸の内			
12	2000	本間 道夫/S27	東京会館/丸の内	ラテン音楽	ロス・ラティーノス	アイ・ジョージの愛弟子
13	2001	本間 道夫/S27	大丸百貨店ルビーホール	フラダンス	東 恭子	クイーンハワイアンズ
14	2002	本間 道夫/S27	大丸百貨店ルビーホール	ハーモニカコンサート	藤城 康永	東信同窓連設立：本間元会長
15	2003	本間 道夫/S27	東京会館/丸の内	心の歌ミニコンサート	内堀いつ子	NHK放送合唱団
16	2004	本間 道夫/S27	品川プリンスホテル	心の歌ミニコンサートPart2	鈴木 寿夫	80周年
17	2005	徳田 博/S29	ライオン銀座7丁目	落語・バイオリン	林家源平・平井崇揚	エリアを群馬・栃木・茨城に広げ1都6県に
18	2006	徳田 博/S29	ライオン銀座7丁目	酒造り	原 拓男	アテネオリンピック女子バスケット選手団長・千曲錦社長
19	2007	徳田 博/S29	ライオン銀座7丁目	ギター弾き語り	ルナ・ケンゾー	古賀政男の最後の弟子
20	2008	徳田 博/S29	ライオン銀座7丁目	岩高の歴史について：岩崎長思	鈴木 公人	同総会前会長・現顧問
21	2009	中村 浩子/S29	ライオン銀座7丁目	日本のローケツ染事情	伊澤 正男	蛸けつ作家
22	2010	中村 浩子/S29	ライオン銀座7丁目	ふるさと佐久の将来	木曾 茂	長野県生活環境部長
23	2011	生駒 友臣/S30	ライオン銀座7丁目	長野県の今とこれから	寺島 義幸	長野県議会議長
24	2012	生駒 友臣/S30	ライオン銀座7丁目	私の40年の足跡	中島 豊	体育館に「大浅岳」額寄贈、長野県警地域部長
25	2013	清水 光男/S31	ライオン銀座7丁目	元会長	浅野 和男	(株)日本ビジネスセンター
26	2014	清水 光男/S31	ライオン銀座7丁目	圧力計測器測定について	依田 恵夫	長野計器社長、90周年
27	2015	柏木 慶永/S40	ライオン銀座7丁目	あの頃の岩高の思い出と最近の私の地域活動等	山口 通之	元岩高教諭
28	2016	柏木 慶永/S40	ライオン銀座7丁目	大学への道、そして取り組んでいること	飯島 完司	日本工業大学教授
29	2017	柏木 慶永/S40	ライオン銀座7丁目	地方記者として東京で感じた事	中村 直志	信濃毎日新聞東京支社報道部長
30	2018	柏木 慶永/S40	グランドパレス	果物と暮らす日々より	土屋(松川)信子	土屋農園園主
R 元	2019	柏木 慶永/S40	ライオン銀座7丁目	ソニーのウォークマン開発秘話	荻原 明	元ソニー
2	2020	柏木 慶永/S40	コロナ禍にて中止			
3	2021	小林 裕/S47	コロナ禍にて中止			
4	2022	小林 裕/S47	コロナ禍にて中止			
5	2023	小林 裕/S47	ライオン銀座7丁目	東都岩高会のあゆみ	清水光男/田中	

岩高の証言：

戦中、進学ピーク、新旧の学制、共学化、民主化（生徒会、教師と生徒）等（その一）

小山 米治郎

（昭26卒／上田市在住）



◆編集委員より

・ご承知の通り2024年に長野県岩村田高校は創立100周年になります。

その事業のひとつとしての百年誌の編纂を進めており、編集子も参加しています。そこで後世に正確に残したいもののひとつに戦争直後の本校の優良な進学実績の検証がありましたので、その当時のようすを下記の証言で知ることが出来ました。本来本稿は百年誌用に書かれたものですが、余りに面白い内容の反面、長い文章なので全文を百年誌に掲載するには難しい事情があります。そこでより広く関係者に全文を読んでも頂きたいとの思い取り敢えず本誌に分載することのお許しを頂きました。

・本校の進学実績は戦争直後の昭和27年頃がピークで県下No.1と一部で云われていました。しかしデータで調べると確かにその時期が本校のピークではあったものの、以下の証言のように東大3名（決して東大合格者数が全てと云う事ではないですが、有効な指標と

考えます）と長野、深志、上田等の名門の後塵を拝していました。

・時あたかも学制が旧制から新制に代わり、平和憲法と学校民主化に伴う生徒会の創設や岩村田城戸丘高校（旧岩村田高女）との統合による男女共学化等の大変革期の中で、それが占領軍の上からの政策であったので社会も学校も生徒も当惑し混乱したようです。執筆の小山米治郎さんは戦争末期の昭和20年春に旧岩中に入れ、引き続き戦後に初期の生徒会長を務められ、新制岩高の第3期生として昭和26年に卒業後、東大教育学部を卒業され、その後県下の高校の社会科教諭として教育現場を長く務められました。ご高齢ではありますが、記憶が非常にクリアで明晰です。予め当方がお聴きしたい事項を提出して、それに沿って書いて頂きました。極めて貴重な興味深い文章となりました。

・尚、新制高校では昭和27年がピークでしたが、古い名簿を調べるとそれ以前の旧岩中の昭和18年には東大に4人

行っているようです。当然名簿には洩れた東大の方もいると思われますが、一方当時は旧制で直接東大に入ることではできず、殆どが旧制高校等の経由でした。更に戦時中は旧制高校並みの優秀な人材が陸軍士官学校や海軍兵学校に進んでおり、終戦後そこから特別な優遇制度で東大に行った方もいました。従ってこの期からは元林野庁長官の秋山智英さん（東大農）、元讀賣新聞論説委員の小川武さん（東大法）、元県会議員の佐藤利次さん等の多くの人材が輩出されています（記録によるとこの期から3名が旧制高校へ、7名が陸海軍学校に進んでいます）。更にその1期下の昭和19年には元サッポロビール役員の大塚英三さん（東大）、や元佐久市長の神津武士さんがいます。



◆小山米治郎さんの証言

①当時の進学状況

先に60年誌では昭和27年は県下No.1と言われたが、些かoverであるかと思われます。（敬称略）

・東大…3人…浪人…小山米次郎

（元高校教諭）、甘利敬正（元王子製紙専務）、現役…町田晴夫（名糖産業）

・一橋大…2人…浪人…榎沢泰（三菱銀行）、現役…武井永（小松製作所）

・東京工大…2人…現役…小平晴雄（三菱レイヨン）、尾台永（日本精工）、26年…西川孝雄（院卒、宇都宮大教授・博士）

岩高関係では私の知る限り所謂Big three（東大・一橋・東工大）はそんなところです。他校の東大合格者状況については上田（当時は松尾）が5名とは一寸意外でした。前年野沢北の7名というのは疎開生が何人かいたと聴いております。私は浪人の時の東大学力増進会の全国模試で上田（松尾）の5番と私が同点という話を聞きました。根拠は全く不明なのですが、「それでは今年は何も！」と思ったことを覚えております。

尚、当時の東信の旧制中学は上中（のち松尾）、岩中（岩高）、野中（野沢北）の3校が県立で男子のみの普通科、望月（望高）は組合立。この4校では初めは5年制でのちに学制の改革で中学3年制、高校3年制となりました。

②なぜ進学実績が良かったのか？

私どもの岩中受験は戦時下の昭和

戦後（新制高校）の東大合格者数

高 校	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	50年代
	S25	S26	S27	S28	S29	S30	S31	S32	S33	S34	計
岩 村 田			3		1				1		5
長 野	6	3	12	6	14	6	12	11	12	15	97
松本深志	9	15	14	13	19	27	22	19	29	22	189
上 田	9	7	5	10	5	13	8	11	9	20	97
野 沢 北	3	7	3	3	3	5	1	3	2	2	32

web：進学校名鑑より

20年春でしたので、岩村田小学校卒の生徒が、遠い上中、野中など行ける状況ではありませんでした。それ故に岩中にも北佐久郡から一定レベルの生徒が受験したのです。

③当時の生徒の意識？

特に記憶に残る事はないです。岩中へ岩高と6年間、教師も生徒もほぼ同じ顔ぶれでのんびり楽しい思い出一杯です。

次の事は秘のようなものですが、1年上の土屋正人さん（一橋、日本鉱業）が我々7〜8名を前に「おまえた、岩高の教師相手に大学へ受かるうなんて思うな。受験勉強は自分でやれ！」と強烈な impact でした。私も前述の甘利君も夏休み中の進学補講には出ず、別室で8・30〜16・00迄頑張りました。そこには一級上の土屋春雄さん（東京教育大から県内高校英語教師）が「俺も加えろ！」と3人で仲睦まじくやりました。

・一緒に入学したものの疎開の方や地元でも岩高ではダメと東京の名高校に転入した方で東大に入った方が二人ほいます。その一人が長野圭介君で都立小石川高校にバックしたのですが、「東大入試より高校の模試の方が難しかった」と彼はいました。彼には4年間保証人を依頼しましたので、

亡くなる迄交流がありました。

・東京高等師範（教育大から筑波大）新卒にて3年間岩高で数学を教え松尾（上田高）に引き抜かれた田中菊男先生に町で会った時云われました。「小山、おめえ達は俺が5教えても、4理解するのがやっとな、松尾に来てみろ、問題集なんかやってねえぞ！」。私は「え？」。田中先生は「やっているのはな……難問題集だ。」

・私の2年次の担任は数学担当の上原先生はよく二日酔いで出校して、ある時間に何かの定理の説明中、途中で声が止まったので顔を上げるとコックリ・コックリ。生徒一同音もたてずにニヤニヤ。しかし1分とは経ちませんでした。さり気なく説明再開。田中先生と上原先生に数学を指導された生徒達（岩高生）は自分で奮い立たなければ、松尾生に太刀打ちできませんでした。

・しかし私は、夏休み以降7〜12月の間、生徒会長をやりましたので、受験勉強には集中できませんでした。このことは後述します。

④学制の新旧の切り替え等

(i) 終戦迄・昭和20年3月10日 岩中受験 3月10日（東京大空襲の日）前後3日間、面接試験でした。既に紙もなく、全県の小6が受験

する中等学校はペーパーテストなしでした。第1日目、12歳の私は緊張して面接官（教師数名）の前に着席したら、突然右端の体育の山浦保先生（岩中第1回卒業生、教師仲間でも大ボス）から「おめえは野球が好きだったなあー！」と言われて、びっくりしたと同時に一気に気が楽になりました。岩小3〜4年の時、野球気違いの私は兎の餌を採るおにぎりと鎌を手に学校から帰ると毎日、岩中の校庭で、野球の練習の初め（warm up）から終わりまで（キャチャーフライのシートノックで終わり）熱心に見物し、遂に監督の山浦先生から目を付けられ、シートノックが始まる直前「チビ来い、ここに一球毎に正の字を作っていけ、6個出来たら言え（1人30球です）」と。人生でこんなに張り合いのあった時期はありませんでした。昭和16年12月8日アメリカへの宣戦布告の前、文部省の通達（6月？）で甲子園大会中止となりました。翌17年文部省は「少年の体力錬磨」の名で甲子園大会がありました（高野連はこれを認めておりません）。しかし、岩中はこの昭和17年の県予選には参加していますから、野球部の練習はあったのです。

・第2日目、面接官（教頭）から「どうして受験を？」の質問に困った私は「陸幼（陸軍幼年学校）を受けたいです」と。「どうして陸幼を？」と糺され、私は「立派な兵隊になりたいから」と答えた処、突然教頭は両肩を張り「君は何を勘違いしておる。恐れ多くも畏くも陸幼など出ても、出なくても皆、天皇陛下の兵隊だ！」（当時は小学校卒業後中学1～2年（13歳以上）で入る陸軍幼年学校から陸軍士官学校、更に陸軍大学が陸軍の出世コースと云われていた。陸士には中学4、5年でも入れるが、陸幼の方が本流で、試験も難しかったようです）。一転地獄となり、とぼとぼと家路につきましたが、でも一応合格。入学式の前日学校から電話で「宣誓をやりなさい、入学生を代表して一生懸命やりますと習字紙に筆で書いて来なさい」と。私にとっては漢字の「先生」は知っていましたが「宣誓」は初めての言葉です。「そんなものどうやって書いてよいか分からない」と私は寝床に潜り込みました。20～30分ほど経ったでしょうか、布団をまくった母親が言いました。「できたよ」と仕方なしに、夕食後何十枚も描きました。入学式から帰宅した後から父親が「お前が寝

てから読んだ、あんな下手な字を学校に持って行けやしない。わしが少し下手に書いておいた」と。昭和20年4月4日の岩中入学式の宣誓は母が原作、父が清書、私が朗読という代物でした。



修身の授業

・入学の喜びも束の間、農家への勤労奉仕、そして佐久市にある農林省の種畜牧場での飛行場建設。「月・月・火・水・木・金・金」と毎日モッコ担ぎで、8月15日の終戦に至ります。

当日12：00天皇の「玉音放送」はその事務所で聴きました。その後軍の責任者は涙ながらに「これを以て皆さんのご協力は要らなくなり下さい」と。明日から学校へお帰きませんでした。友数人と何とな

(ii) く元氣なく家路へ、終戦とか敗戦とか、そんな意味は考えもしませんでした。ところが、夕方母親から「今日からは家中の電気を全部点けてもいいんだよ」云われびっくりしました。トイレに行くにも壁を手探りで行く必要はなくなつたのです。嬉しかったことは言葉に表せません。これが平和というものかと実感した8月15日でした。終戦後・昭和25年の実質男女共学の岩高に至る迄、及び昭和21年・昭和22年4月1日の六・三制の発足迄



岩村田高等女学校

昭和21年11月3日現在の日本国憲法の公布。多くの先生方が特に象徴天皇制と9条を語りました。初めての言葉は担任の北川先生でした。

「己の股のものを掴んでみろ、それが男の象徴だ」皆笑いました。でも何となく分かったような気がしました。そして9条、文部省が全国の中学生に「新しい憲法のはなし」という冊子を配布しました。「皆さんは武器がなくなったことを心配していますが、安心してしましなう。これから日本は平和国家として進むのです。平和ほど強いものはありません」。嬉しかったですね。これで天皇のため、誰かのために死ななくてもよくなったのだ（その後70余年おかしな世相になりましたね。「敵基地攻撃」、「米国と核共有」などと物騒な発言が政権内部から……）。また教科書らしきものはなく、英語の教師も通訳として軍部に従属したので帰国が遅く、私どもは国語担当の神主（小林）先生から英語を習いました。しかし教室内は明るく楽しい生活を送りました。

(iii) 昭和22年4月1日6・3制の発足
岩中の私どもと1級下（棚沢利一君たち昭和27年卒）の3・2年生は岩村田高校併設岩村田中学校との名称の学校の生徒になりました。新1年生の入学はなく、彼らは新制中学の1年生となっておりまして。尚、私どもの上に高校1～3年生が一緒に旧岩中の校舎にいました。

(iv) 民主主義の導入と社会の反応

ここで昭和21年～昭和25年頃の日本社会は上も下も民主主義のいい時代でした。農地改革で寄生地主制は崩壊、農村の封建社会は一気に明るくなりました。また、NHKがラジオ歌謡で「街から村から工場から…働く者こそ幸せになる時…」を連日流しました。「…」の部分は今でも私は言えます。また巨匠今井正監督の「青い山脈」が全国で物凄い人気。甘利君と午後の授業をエスケープしてキネマ（岩高の校庭から田圃2～3枚、5分位で行けた所）に行つて観ました。本当に明るい平和を満喫できる青春映画でした。学校も当然、その民主的風潮の影響を受けました。その一例は後程……。

昭和24年には湯川秀樹が日本で初めてノーベル賞（物理学）を受賞、水泳の国際大会（オリンピックには参加できず）で古橋広之進が堂々の世界新で優勝。もともと昭和24年には松川、下山、三鷹事件等迷宮入りの暗い大事件もあったことも事実です。しかし、民主主義がこれほど大手を振った時代も以後ではないかと、主観的に思っております。

(v) 生徒会長について

昭和25年4月愈々男女共学の岩村田高校の発足。これまで女子は旧制岩村田高等女学校の校舎（現 佐久

長聖高の地）にありました。この3月春休みに私どもも女子部からの図書運搬などをしました。4月には新1年生も入学して、彼らはクラスも男女一緒です。でも私どもの3年生と2年生のクラスは男女別でした。

しかし授業は民主主義の理念で大幅に選択制となり、私の履修した世界史・英語は男女一緒でした。「英語の授業についていけない」との甘利君の従姉妹の甘利久美枝さん（信大教育）などの女生徒の声もありました。

そしてクラスマッチ、男女相対種目もあり、文字通り和気藹藹で男女共学を実感しました。私は小学校3年迄では男女一緒でしたが、昭和16年の開戦の折「男女席を同じくする事勿れ」で小学4年から高校2年迄男子のみの生活でした。新しい岩高が始まりました。

・私の前の会長（内島隅一君）時代（高2～高3の6月）の関係のことを……一寸彼からの聞き覚え

5月全県の高校の生徒会長と顧問が松本に召集されました。県教育委員会は当然関わっていた筈ですが、内島君からは長野県軍政部（米占領軍）の関係者もいたと聞きました。そこで生徒会規約の雛型が示されて、規約の最後に「全ての決定は学校長の承認を必要とす

る」の項目を付加するよう求められました。これに松本深志の会長（金さん）が「それはおかしい」と反対したが認められず、当初案の通りとなったといえます。先日市の図書館で「岩高80年史」を見たが、それに載っている生徒会規約のどこにも「校長承認」の言葉はありませんでした。このことは正確とはいえないかもしれませんが、お含み置き下さい。もともとその後見た小商の年誌には「校長承認の必要」との文言がありました。ただ私の会長の最後にその「拒否権」が使われた事は事実です。その件は後に触れます。

・全校討論集会

発案は学校側と思われませんが、明確ではありません。テーマ「岩高を良くするために」、主たる提案と答弁は内島君、内容については次の一項目しか覚えております。「全員出会ったら挨拶をしよう」、「実際は「下級生は上級生に礼と会釈を」ということです。前出の町田晴夫君は「上級生（3年生）の中にはタバコを吸う人がいます、その人たちにも我々は礼をしなければならぬのですか？」。答弁者の私は「礼儀というものは、お互いに親しむ気持ちと相手に対

する敬意が大事です。タバコを吸うということでは尊敬できず礼をしたくないならば、それは仕方がない」。この答えは自分でも一寸何か足りないなどの思いがありました。2～3日後、物理担当の関口先生に言われました。「君は度量が小さい、タバコを吸うぐらいで礼をしなくてよいなどおかしい」と。この件は兎も角として、授業を潰しての一日中の討論集会という企画は素晴らしいものでした。私の県立・私立43年間の教師生活でも全くありませんでした。ただ松本深志ではAssemblyという全校集会をやっているのとこのことを耳にしたことがあります。また長野県高等学校教職員組合（高教組）の年1回の全県教育研究会には「生徒と語る会」なる分科会があり、全県の高校から生徒数十名の自主的参加があり、相互の理解に一定の役割を果たしております。

また昭和40年代に私が勤めた小諸高校では教科単位で生徒と語る会というのがあり、放課後今週は社会科、次週は体育科というプログラムで教師・生徒の意思疎通を目指した試みがありました。

（次号へつづく）

編集者からライターへ 「好き」を大切に、自分らしく育んで

望月(矢野) 廣江
(昭和48年卒業/世田谷区在住)



いつだって今が始まり
まだまだ、人生という旅の途中

岩村田高校を卒業し、いつの間にか五十数年もの歳月が流れた。目を閉じれば、木造建ての校舎に小さな部室。校庭から眺める雄大な浅間山の四季折々の絶景。思い出が駆けぬける。故郷を18歳で後にし、今はすっかり東京に住み慣れた。

仕事、結婚、子育てと仕事の両立。そして、二人の娘達はゆっくりと実家を巣立ち結婚。遅ればせながらバアバにもなった。女性の人生は一筋縄ではいかず、常に選択の連続であり、自分を後回しにすることも学んだ。不器用も、要領の悪さも、口下手も、遠回りも、この年になると無駄なこと何ひとつないと思える。とはいえ、まだ人生という旅の途中でもある。

編集者の道は険しかった
夢は現実を越えた先にあるのかも

短大を卒業し、運よく婦人雑誌の編集部就職した。詩人に憧れていたけれど、食べていけないよ、と言われ出版社を選んだ。そこは夢見た世界とは違い、ひたすら仕事に追われた。ほぼ一年間は原稿

とり。締切間際になると、朝から夕方まで原稿を頂きに著名な先生方の事務所へと同じ場所へ向かうことになる。帰宅時間も深夜になることも少なくはな



四季折々の美しい浅間山はいつもそこに在る。実家の裏道には思い出が溢れて愛しい。

い。時には、こんなはずではなかったと涙がこぼれる。そんな時は涙の雫が落ちてこないように上を向いて空を仰いだ。

けれど、そうした時期こそが、かけがえのない日々だったと今ならわかる。作家、カメラマン、コピーライター、イラストレーター、デザイナー、皆、第一線で活躍し、その後世に出た方も多かった。見方を変えれば、そこは学びの宝庫だっ

た。懸命な努力をカタチにし、輝きを放つ姿があった。

もっと貪欲にその姿から何かを学ぼうとしていたら、駆け出しとはいえ、私の心は一変していたかもしれない。「心のチェンジ」が必要だった。当時の私は未熟であったのだとしみじみ思う。

書くことが好き

ただそれだけで歩き始めた

五年を経て、私は出版社を辞し、フリーライターとなった。書くことが好きな自分がいた。とはいえ、ただなただけで、その先の具体的な構想はなかった。何とかなるだろうと呑気に、それぞれの世界に頑張る仲間と夢を語り合っていた。

ある日、面倒見のよい友人が、とにかく作品を持って行くようにと出版社を紹介してくれた。『JUNON』という若者向けの雑誌だった。緊張したが、デスクの女性は穏やかで笑顔が素敵だった。縁あって直ぐに著名人三人のインタビュー記事の依頼があった。決して小さなページではなかったから、不安だらけだった。「必死三昧」、岩高の剣道部で好んでつけた手拭いに書かれた潔い文字を思い出した。結果など考えずに全力でぶつかればそれでいいと思えた。

自分のスタイルで一歩ずつ
失敗も生かしてまた一歩

取材相手のミュージシャンの女性は、予定をはるかに越えて話は2時間以上に及んだ。情熱的で真つすぐで、ふっと魅力的に笑う。丁寧な生き方に魅了され

た。とはいえ、大変なのは、そこからの作業である。録音テープをレポート用紙に全て起こす。多くのライターさんは取材メモからスピーディーに原稿を書いていたが、私はきつい作業をずっと続けた。テープを起こしていると、取材時に感じていた別の顔が見える。いい言葉にも出合う。インタビュのますさも、良かった点もわかる。指は次第に痺れ、水で冷やしながらが付けば朝になっていたりする。よくしたもので、その作業を終える頃には、ほぼ頭の中で流れもできあがっていた。「帰れ！」と怒鳴られた取材相手も、テープ起こしは相手のいい所を教えてくれた。手のかかる作業には特別な喜びがあった。

とはいえ、失敗も少なくはない。ようやくこぎ着けた夢の対談でテープが回っていないかったこともある。私は瞬間崩れ落ちた。絶対はない。それから、取材メモも大切にした。

認め合い支え合い
阿吽の呼吸を育んで

デスクの女性とは、あの日以来どれほど多くの仕事をしましたことか。ベビー雑誌の創刊号に立ち合い、本誌の取材に駆け回り、最後は暮らしの手帖社の季刊誌『あたらさん』を共にした。若くして



高校時代、使っていた手拭い『必死三昧』。『女子剣道の時代がくる、やってみないか』美術の先生に誘われ入部。お稲荷さんの階段の鬼跳びはきつかった。



「あたさん」(暮らしの手帖社・刊)は、現代のあらゆるもったいないに光をあてた。創刊号で対談が実現した清川妙先生は93歳、吉沢久子先生は101歳で人生を全うされた。編集室は信濃追分の駅舎を改造して話題となった。

急ぎ足の時代の中で 変わらぬ心をつなぐ

時代は急ぎ足で、目まぐるしく変化し
た。私達が手にする便利さの中で、多く
の仲間が仕事を離れざるをえなかった。
かつては一冊の雑誌も途方もない人の
手の連携により、時間をかけ、打ち合
せを重ね、読者にとって今、何を届ける
べきかを模索した。カメラマンさんか
ら上がってくる写真を一緒に選び、デザ
イナーさんに原稿・写真やイラストと共に
直接お渡しし説明する。デザイナーさん
は、レイアウト用紙に全ての素材が生か

逝ってしまった大切なカメラマン氏との
トライアングルで培った三十年以上に及
ぶ本づくりは、自分づくりでもあった。
倒れるほど忙しい時期も過ぎたが、
何と心豊かな日々であったことか。今も
多くの思い出と共に感謝で胸が熱くなる。

されるよう反映して下さる。原稿は写植
屋さんが一字一句文字を印字していく。
それを版下屋さんがデザイナーさんの指
示通りに切り貼りし、気の遠くなる作業
を経て紙面に収めていく。

そこには、丁寧で緻密な職人の手に委
ねられた技と心意気が在った。共に築き
上げていく実感と信頼、多くの人が醸し
出す熱い空気感に勇気も元氣も頂いた。
そうして書店に並べられた雑誌には確
かな顔があった。書店の隅で、生まれ
たての雑誌を眺めるのが好きだった。ち
ょっと、誇らしかった。

パソコン、デジカメ、デザインソフト、
今や魔法のように短時間で多くのこ
とが綺麗に形になる。多くの雑誌も廃刊
になり、書店も少なくなった。新しい風
は新しい可能性を秘めて突き進んでいる。
私はかなり乗り遅れている。

がむしゃらに向かった高校剣道 再スタートは学びに満ちて

岩高の思い出の多くは剣道である。今
も一人ひとりの顔を思い出せる。心から
感謝している。男子の中の紅一点。心配
そうな顔をして、体育館を覗き込んでい
た母の姿を思い出す。

歳月は流れ、私は四十代半ばにして、
思いがけず再び竹刀を手にした。
「もっちゃん、鏡を見てごらん。かがみ
から、(我)を取ったら、かみ(神)にな
るんだよ」。剣道は我をとる修行。そし
て、お腹を叩いて「ここが大事。ここに
納める事が大事」と説く。今年百歳にな
った男先生は範士七段。剣道を通して心

の在り方をたくさんお話下さる。
背筋もシャキッと伸び、構えて立つと
私達は動けなくなる。体から発する「気」



50代、世田谷区の大会で(奥)。怪我のため六段審査も道半ば。ようやく打ち込みができるようになった。

に押される。女先生は女子剣道の草分け
的存在。礼儀作法に厳しく、着装、道場
での立ち振る舞い、美しい剣道と基本を
徹底し、時に厳しい言葉も飛ぶ。剣道形
への拘りと評価も高く、細やかで有り難
い指導に恵まれている。少年剣道に全身
全霊で向かう八十歳を迎える姿は凛々し
い。入門して二十数年が経つが私はまだ
ヒヨッコ。まだまだなのである。

大らかに、自分らしく 支え続けてくれた存在に感謝

高校で剣道をしていたから、繋がった
今である。とはいえ、卒業時は、こんな
きついことはもうしたくないと思えた。

今も怪我に悩まされ、ふと立ち
止まることも多い。仕事も同じ
だった。続けられたのは奇跡だ
と思うことさえある。

壁にぶつかった時、そこには
いつも友がいた。仲間がいた。
家族がいた。同じ志をもった多
くの温かい眼差しと言葉に支え

られ、背中を押された。「ありがとう」
を言えない、かけがえのない友が何人も
いる。まだまだ約束も守れていない。
私は次女の成長を機に、少しずつ仕事
から遠ざかっている。無垢な目の眼
差しにジッと見つめられると、いつも心
が揺れた。悩み抜いて、私は仕事をかな
り減らしていった。

どの子もみんな素晴らしい未来 幾つになっても、誰もが未来

仕事は体力と気力。復活の日を願
い、スポーツに夢中になった。ママさんバ
レーを40歳から20年続け、剣道も再ス
タート。縁あって小学生バレーの指導も
させて頂き20年が経つ。どれくらい多く
の子供達が私の背を追いついて巣立った
ことか。反抗期も爆発も、全力で受け止
め、一緒に前に進んできた。皆、愛しい。
子供はみんな未来だと思ふ。皆、大
きな可能性を秘め、やがて輝きを放つ。み
んなちがって、みんないいのだ。私達大
人に委ねられる責任は大きい。

そしてまた、私達もみな未来だと思ふ。
限りある道ではあるけれど、まだまだ道
は続いていく。随分ゆっくりになつた
けれど、感謝でもうひと頑張りである。



教え子が戻り、悩める監督を支えてくれる有り難さ。昨年は都大会準優勝。



孫の存在は大きい。幼い日を想い、子供達の幸せな未来を願う。

高校から、今

市立小諸高原美術館・白鳥映雪館、
小諸市立小山敬三美術館館長

小清水 敏彦
(昭和48年卒業／小諸市在住)



高校時代

家から高校まで3 km、旧中山道沿いの集落を過ぎて半分まで来ると、母校の手前に浅間中学校が見えたものだ。当時は遮るものが何も無く彼方から見えたが、今はというと新幹線駅と新しいショッピング・タウンとなっている。このことを予らに伝えても「そうなんだ」で終わってしまう。

高校時代は併設していた機械科のおかげで、自分が好きな自動車の部があった。そこでフレームから手作りでカートを作った思い出がある。250ccのスクーターエンジンが作動し、動いた時の感動が思い出される。

それから同級4人でバンドを組み、文化祭でステージに立ったな。あのドキドキは今も記憶にある。それからどんな大きな場所で挨拶などしても、大丈夫になっている。

文化祭で女子だけの、音楽部の手伝いをしたことがある。オペラだった。この部は女子ばかりで、私のバンドの男子2名に白羽の矢が立ったのだ。私は最後の独唱アリアをまかせられ、そのラストシーンで、音楽部長の少々体格良い身体が、ステージ下のマットに

思い切りよく飛び込む。美しい？ 姫が湖水に身を投げるシーンだ。このオペラの最後はドスンという大音響で締められたのだった。幕が引かれソデに下がった私、感動3、笑7の思い出。

高校時代に、もう少し勉強しておけば良かったと思うことがある。でも今は、何でもいつでも勉強なんだと皆に言っている。

そしてもう一つの大事な記憶、それは級友の他界……。残された人たちの悲しみに接し、この時から私は、どんなことがあると彼の分まで頑張ろうと心に誓った。その決意は今も決して衰えていない。

思えば遠くへ

思えば遠くへ来たものだ、それは歌の文句のようだった。

高校から東京に出て、大学生活を終え社会人になる。それから2年足らず、転勤で東京本社から北海道の大地に立った。飛行機に初めて乗ったのがこの時だ。

運転が好きで広大な地を移動することが苦ではなかった。札幌に住み、釧路への出張があった。40数年前の当時、高速道路は全行程の1/10もなく、目

的地まで400 kmあった。北海道内の出張に飛行機を使うことが、特段珍しいことではなかった。

大学時代にラリーに興味があり、それで長距離運転も大丈夫だったのだが、凍結した峠道を通常より速めに走っていた際、あつという間に追い越され雪煙に包まれた時は、北の広大な大地に、世の中の広さも感じたのだった。

こんなで若い頃の北海道は、よく走ったことが記憶の1ページにある。話に出た釧路は、朝陽と共に出て着くのが夕陽、8時間の行程だった。ここで、「思えば遠くへ……」となるわけである。

でも大変だったとか疲れたという記憶は無い。どこに行っても（今はどこでも手に入るのだが）、故郷にはない海産物が迎えてくれた。カニは何種類も並び、どのカニが自分の好みか、ニシンだつて刺身で出てくるし、枚挙にいとまがない。ここで脱線、サンマの刺身、今は日本中どこでも食せるが、当時の札幌でも氷詰めで持ち帰るしか刺身で食べられなかったが、北海道東部では当たり前に出して貰えた。「サンマの刺身食べてきた」と言えば、札幌で土産話となったものだ。

25歳で、赴任した先の所長になった。この時営業所事務員がお産で退職、代わりの事務員を募集した。4人目の面接者が何と高校同級生、憧れのJさんに似て、この人に決めたのだった。

結婚は札幌で出会ったこのJさん似の事務員と。ここでも岩高とつながる。札幌といえはすすきの。深夜でも平気で女性たちが歩き、安全が売り物の

大繁華街であった。ここでの思い出は歌。当時カラオケがまだ出回っていない頃で、生のバンドやピアノなどが伴奏をしてくれる。

行き付けの店では、そろそろカンバンという時刻になると、店主が私にサインを出す。ピアノのイントロが流れる。布施明の「そつとおやすみ」を私が歌う。大して上手いわけではないが、岩高時代のバンドの成果……。お客たちが「もうそんな時間か」と閉店に気付き席を立つ。ギヤラはビール1杯分ほど引いてもらうのだった。

若き日の東北

3年後に北海道から東北へ転勤した。東北6県も広がった。15年間でこの内の4県に住んだが、県ごとに特徴があり、どこも人情豊かで自然も一杯だった。

ここで夢中になったのが釣り。子どもころから父の影響で、千曲川で釣りをしていた。高校の終わりにまだそんなに広まっていないFLYに出会ったが、当時は「揚げ物ではない釣りの」フライと言わないと間違われたものだ。1992年、国内を対象（後に世界対象）としたFLY

の制作コンテストでグランプリを獲得した。そして忙しくなった。TVやラジオ出演、書籍の発行など、そして多くの地にデモンストレーションに出掛けた。仕事は続けながらで



デザインしたサーモンFLY

ある。

ある時川幅500mもある宮城県のア武隈川河口近くで、鮭類のサクラマスを狙って釣りをしていた時、対岸からゴートと大型RVが橋を渡ってやって来た。私のことを双眼鏡で見付け、サインを求めに来てくれたのだった。

夏は子供の時から千曲川で父とやっていた鮎釣り。水がきれい、美味しい東北の鮎はどこでも喜ばれた。競技会も盛んで、岩手県内の全国大会トヨタカップ（サッカーではない）では準優勝だった。僅差でクルマを逃してしまった。優勝するとトヨタ車1台がもらえる2日間の大会。全北海道杯でも2位だったな。

二人の娘に恵まれた東北、豊かな自然と人柄の良い土地で、実に素晴らしい環境であった。

それから大手の同業者に誘われて転職したのが40歳過ぎてのこと、東北地方から再度北海道へ渡った。

親との別れ

その後北海道から仙台に転勤となり、故郷は年に一度ほど帰るくらいであった。今から20年前、父が病気に掛かり岩高近くの浅間総合病院から、セカンドオピニオンで仙台に来て貰った。久しぶりの親子同居で幸せだったが、その幸せは3カ月でついでた。父を仙台から小諸まで運び、葬儀を済ませた。とんぼ返りで仙台に戻った。

一人暮らしを小諸で再開した母も、その6年後に亡くなった。一緒に住もうと何度も言ったが、やはり生まれ育った故郷はいいものだったのだろう。

故郷に帰る

親が住んでいた空き家、私も高校まで住んだ家に、次の転勤地川崎市から年に数回通い、少しずつ家を片付け始めた。

関東地方の結構広いエリアから、浅間山は望める。あの山ふところに父母が眠っていると思うと、頭を下げずにいられなかった。

上司、顧客に恵まれ、予定より2年長く会社員生活を送り、67歳に近い2021年3月に故郷に帰った。岩高を出て48年振りだった。

都市計画や街づくりのコンサルタント会社に働き、それこそ北海道から東北、関東、名古屋、京都の支店も経験した。この人生で得られたものは簡単に言い表せないが、不思議な縁や出会いがあり、自分を豊かにしたと考えている。

高校時代に勉強よりも、自然に触れ親しむことが好きだった。大学も地球科学を選んだ。自然には太刀打ちするのではなく、身を委ねるくらいで丁度良いと思っている。地球科学や気象学、動植物たちと触れることは今も私の安らぎである。

芸術に囲まれる

故郷に帰り一年間は、家の片付けや畑の再開などでゆっくりと過ごした。毎日のように焚火し、空を見上げる日々、何かもう一度始めよう、チャレンジしなければと思い始めていた。

丁度小諸市役所で、文化施設の施設長を公募する情報があった。美術館の館長職に思い切って応募する。



市立小諸高原美術館
北アルプスが見える。
南方には富士山も。



小諸市立小山敬三美術館
懐古園にあり、桜、紅葉が美しい

今までの人生であまり興味や関連がない、いわば畑ちがいの業種に働いたので、芸術は分からないが、人を集める算段やプラン作成は少し自信があった。

小諸市には二つの公立美術館がある。こんな狭い市域に、なぜ二つか？それはご承知のように小山敬三と白鳥映雪という二人の画伯が生誕した土地だからである。この二人とも日本芸術院会員で名誉市民の称号も得ている。両画伯が自身の名作を市に寄贈して、美術館ができたのである。この両館長を兼任する募集であった。

今までの施設長は、市の上層部や学校長、教育長経験者など、そうそうたる面々であった。何も知らないから飛び込めたのだと思った。そして途中で投げ出せないから努力する日々が始まった。

初めての民間出身館長であるということで、何か目新しいことを、新鮮な

NKS 長野計器



丸子電子機器工場

「安全・安心・信頼」をキーワードに
社会に貢献いたします

長野計器株式会社

代表取締役会長 依田 恵夫（昭和40年卒業）

代表取締役社長 佐藤 正継（昭和48年卒業）

本社 〒143-8544 東京都大田区東馬込一丁目30番4号

代表 TEL 03(3776)5311 FAX 03(3776)5320

ホームページ <https://www.naganokeiki.co.jp/>

ことをやってくれるだろうと、多くの関係者から期待が掛かる日々…。こんなに期待され励まされたら、やっぱり無理でしたとは言えない。

切り替えの早さは得意とするところである。まあ良かったと思ったのは、この歳になると普通要らなくなるYシャツやスーツ、ジャケット、靴まで押入れから出し、又お世話になっている。これら仕事着は、中々捨てられないものだが、今はもう少し買い足そうと思うくらいである。

さて東信州、佐久・小諸地方は、この仕事に就くまで知識がなかったが、絵画の聖地と言える。美術館が多く、絵画愛好者がどこにもいるのである。そしてそのレベルも高いのである。

とはいっても問題がある。それは絵画愛好者の多くが年配の方々なのである。美術館で毎年開催している大きな公募展でも、令和4年度は60歳以上が実に90%を超えていた。段々と応募者が減っているのは、まさに高齢化が一因である。

そこで絵画文化の灯を消してはならないと、次世代を担う青少年に、地域が持つこの文化を伝え継承して欲しいと願っている。新年度になり私の企画が通ったら、長野県の補助金を使いこの絵画文化の継承を本格的にスタートすることになっている。

普通ならば定年を過ぎボーと生きているはずが、今こんなに熱くなっている。アイデアが浮かぶのは明け方が多いので、現職の時のように、また仕事で眠りが浅くなっている今である。

母校に

40数年振りに母校の門に立つ。あのすきま風の校舎は新しくなっていた。そこは浅間山、蓼科山、美ヶ原に見守られ、直接は見えなくなったが北アルプスも。市街化が進んだが、紛れもない青春時代の学校がそこにあった。

訪問したのは、自分の美術館が公募する絵画展への、高校生の参加依頼である。前述の、青少年に対し行動を起こしている訳である。

知らない方も多いと思うが、母校は美術の部活動が結構盛んである。先輩に東京藝術大学出身が何人かいるという。先日、岩高先輩で芸大出の画家が、美術館に来てくださった。

高校から今

1973（昭和48）年に岩村田高校を卒業し、48年間故郷を離れていた訳だが、少し（少しではないが）離れてみると、その良さが分かるものである。冬の寒さはその先の春の喜びとなり、花の美しさとなる。

昔と違い夏にエアコンが要るようになったけれど、他の土地のように一晩中それを点けることは無い。

地球温暖化が顕著であるが、寒暖差を生かした農作物で当地は今、優位に立っている。ワインが有名になり2022は、小諸のワイナリーが大きなコンテストで上位独占を果たしている。

高校から今までの人生を、数千字で表すことは簡単ではないが、岩高の3年間がその後の50年間に何かの影響を及ぼしていると思うと、ふふつと微笑んでしまう。

私の散歩道（手賀沼）

西田 篤実
（昭和48年卒業／我孫子市在住）



私は我孫子市在住です。趣味と言うよりは、体力低下防止、気分転換等を兼ねてウォーキングを楽しんでいます。ウォーキングは主に「手賀沼遊歩道」「手賀沼公園」を中心に、体調を考慮しながら、自分なりにいくつかのコースがあります。

手賀沼と聞くと、汚れたイメージがありますが、二十年以上をかけて、周辺地域も整備されて来ました。手賀沼遊歩道・手賀沼公園は代表的なものです。

まず、手賀沼遊歩道へ行く前、あるいは遊歩道からの帰りに立ち



寄りたいのは、「高野山桃山公園」です。小さな公園ですが、ここから見下ろす手賀沼の蛇行、草木としては「ゲンペイモモ」、歴史的には我孫子市最古と認定された「前原古墳」があります。但し、ここに手賀沼方面から来るには、私が名付けた「オニの階段」を登る必要が有ります。さあ、「手賀沼遊歩道」です。四季

折々色々楽しめますが、やはり3月からの春と初夏の花々が素晴らしい！桜の回廊、ツツジ、花蓮、藤棚等々。桜は色々な種類があり、見頃も長く見られます。

文化的にも白樺派の武者小路実篤・志賀直哉らが拠点としていました。

「手賀沼遊歩道」は柏方面まで延び、円周状になっていて、まだまだ見どころスポットは、沢山有ります。

また、こんな珍客（白鳥の親子）



が出迎えてくれるかもしれません。害鳥指定されていますので、農家の皆様は大変です！



「チバラキ」と揶揄されますが、千葉県我孫子市天王台・高野山地区にご興味が湧きましたか？

お薦めの スポット



●富士山と富士五湖

柏木 慶永 (S40卒/所沢市在住)

◆四季折々の変化を楽しむ

日本人にとってだれもが誇れるのが富士山。頭が雲の上にある日本一高い山。しかも単独峰のため、美しい姿は右に出るものなし。その富士山を取り囲むように位置するのが「富士五湖」。本栖湖、精進湖、西湖、河口湖、山中湖の5つで2011年9月に国の名勝に指定され、2013年6月22日には5湖すべてが世界文化遺産に登録されました。

5湖は適度な距離を保ち、それぞれから見る富士山の姿が変化するのも面白い。四季を通して多

くの観光客が訪れ、外国人は「まず富士山が見たい」というほどの人気です。

これらの湖は富士山の約9000年前の噴火と、800年(延暦19年)の噴火、864年(貞観6年)の噴火で生まれたといわれています。中でも山中湖は標高1000mにあり、面積も最大です。長池親水公園や最奥部の平野地区、少し離れたパノラマ台がビュースポットで、両裾野を長く引いた美しい富士山が見られます。早朝の波静かな湖面には「逆さ富士」が映り、それは見事です。

・東京からの道順は中央自動車道の大多JCTから河口湖方面に行きます。河口湖ICから国道に出て右方面が河口湖、西湖、精進湖、本栖湖。左方面が山中湖や忍野八海。山中湖は東富士五湖道路が利用できます。

●東京都 港区立芝公園

小林 裕 (S47卒/港区在住)

◆花と癒しの散策



JR浜松町駅より徒歩10分、都営三田線御成門駅および都営大江戸線赤羽橋駅より徒歩5分のところに「港区立芝公園」があります。広々とした公園で小さなお子さん連れのご家族や、海外からの旅行者などが運動や散歩を日々楽しんでおられます。

公園の一番奥には花壇があり、われわれ港区民交流ガーデンクラブのメンバーが、毎週土曜日の午前中にボランティアで、お花の手入れをしています。オランダ大使館より毎年贈られる、チューリップが一斉に咲く時は特におすすです。近くには、東京タワー、増上寺、都立芝公園(梅林、もみじ谷他)、芝丸山古墳(伊能忠敬記念碑)などがあります。近くにお越しの際は、是非立ち寄りください。きっと日常の忙しい生活を忘れさせる、癒しのひと時となることでしょう。

●千葉市 青葉の森公園

岩崎(旧姓工藤) 実江子 (S48卒/千葉市在住)

◆愛犬と共に四季を楽しむ・・・

JR千葉駅より大学病院行のバスに乗車、中央博物館で下車し徒歩7分のところに53.7haの広大な青葉の森公園があります。

大正6年に設立された農林水産省畜産試験場の跡地を利用して、昭和62年に開園しました。野球場を含むスポーツ施設、中央博物館、生態園、能舞台を有する芸術文化ホール、彫刻の広場をはじめ多種広場があります。また、数年後には県立新図書館が設立されるようです。初春の梅から桜、夏の花壇、秋の紅葉と四季折々の自然と彫刻作品を身近に感じながら、日々、愛犬と共に散歩を楽しんでいます。



◆武蔵・信州・那須・房総で・・・

●山と人の出会い

吉田(山浦) 則子 (S48卒/川越市在住)

有名な女性登山家の田部井淳子さんは私と同じ川越に住んでいらっやいましたが、良く一緒に登山をされたという方と偶然出会ったのがきっかけでした。日高市日和田山には田部井さんの石碑がありますが、病気になってよりハビリの為に登った登山です。そして、1年半位前より市内の有志で募った「和楽路会」(わらじかい)に入りました。若い頃山好きで百名山などを制覇した方々も居て、皆さん70歳を超えても健脚の人ばかりで、色々な山を月に1回程登っています。昨年は、百名山の中でも登山易い山として信州の美ヶ原高原へも行きました。また、那須の茶臼岳から牛ヶ首さらに南月山へ至るルートも印象に残るものでした。この1月の房総の鋸山(日本百低山)等々

冬ですと、秩父の蛸梅が咲く宝登山(ぼどさん)もお薦めです。長瀬駅(秩父鉄道)近くからロープウェイもあり、ロケ地としても適しているようで芸能人も見かけます。



日高市日和田山



●早稲田・目白界限

◆神田川を巡る春秋

数多い東京の桜の名所の中で、一番のお薦めは神田川に掛かる明治通りの高田橋からは圧巻の眺めだと思います。

かつてはかぐや姫の名曲のように学生用の下宿が並んでいたようですが、今やマンションに変貌しています。

神田川の南には三ノ輪まで続く唯一の都電荒川線があり、その先には格調高いリーガロイヤルホテルがあり、その南隣が早稲田大です。神田川の北側は丘陵(目白台)には学習院大、日本女子大のほか幾つか学校があります。また椿山荘の庭園散歩や食事は素晴らしいものです。また日本最大級の男子学生寮である和敬塾があります。かつて作家の村上春樹が短期間入っており、「ノルウェイの森」には幾分シニカルに描かれています。隣には肥後細川家ゆかりの永青文庫、肥後細川庭園があります。

他にも目白には徳川黎明会や近衛家のマンションなどの歴史に関わるものが多く散策場所にはこと欠きません。



旧岩中を巡る

周一と罌堂との散歩⑤

(旧岩中の開校迄)

田中 伸明

(昭和48年卒／川口市在住)



【(前号迄の概略)戦後を代表する知識人のひとりである加藤周一(T8～H20)の半自伝「羊の歌」(岩波新書)の中に、史上最多25回の当選回数「憲政の神様」と言われ、また反軍国主義の軍縮論者であった尾崎罌堂(行雄：安政5～S29)の孫が旧岩中の庭球班の主将をしており、周一兄妹と親しく交わっていた記載があった。筆者は定年後に調査したものの罌堂の孫たちの詳しいことは今のところは分からない。一方、周一が学生時代に過ごした追分の宿や医師として終戦を迎えた上田の病院を訪ねたが、周一達を偲ぶものは見当たらなかった。】

今迄様々な視点から周一と罌堂を調べてきたので、そろそろ旧岩中への回帰を考えていました。ちょうど岩高創設100周年に伴う百年誌の編纂に縁があり参加していたら、その調査の過程で興味深い事実を幾つか見つけたので紹介したい。

なにぶん筆者は佐久の故郷を高校卒業と同時に離れており、その後郷土への愛着は比較的強いものの多くてもせいぜい年に4～5回帰省する立場であることに加えて、いわゆる教育者や郷土史家ではなく歴史については全くの素人である。多くの知識・見識を有する専門家や同窓会員の厳しい目に見せられてより妥当なものになりたいの思いがある、一方、当然百年誌の方は記録

性・客観性重視のつもりですが、本稿については筆者の個人的な関心もあり幾分自由に論じてみた。多くの方々からご意見・ご批判・ご助言・ご指導を頂ければ幸いと存じる次第です。

(1) 設立当時、全国で唯一町立の中学と女学校を有していた岩村田町

岩村田中学は大正13年に町立として開校した。当時町立の旧制中学は全国的に珍しく、ましてや町立の女学校まで有していた町は全国で岩村田町が唯一の町であった。

当時町立の女学校の方は珍しくなく野沢実科女学校や小諸実科女学校も岩村田実科女学校と同様に発足は町立であったが、しかし町立中学は全国的に珍しく全国で本校を入れ4校のみであった。

具体的には佐久教育会がH28年に出版した小冊子の『「教育経世家」佐藤寅太郎にせまる』に他に新潟・山口・愛媛の各県に1校ずつと記載されているので早速調べてみた。

・新潟／佐渡 相川町立中学T12開校、相川町は金鉱山の麓で江戸期奉行所があり、佐渡の中心で教育も盛んであった。既にM29には隣の佐和田地区に思想家北一輝等を輩出した佐渡中学があった。また相川町立女学校

があったがT12に隣町へ移転した。山口／周防大島 安下庄町立中学・T12開校瀬戸内の温暖なミカンと漁業町である。女学校は隣町にあった。

個人的には「男はつらいよ」、「瀬戸の花嫁」等の作詩で有名な星野哲郎は卒業生であり、また筆者は10数年前に民俗学者宮本常一の「家訓の家(岩波文庫)」を読んだが、著者の故郷の周防大島での幼い頃の自然と人々の生活が描かれており、温暖で海に囲まれた穏やかな地域と社会に羨望に近い憧れを覚えたものであった。

・愛媛／宇和島の北 吉田町立中学・豊後水道に面した日本一のミカンの産地であり、伊予伊達藩の分藩吉田藩、女学校は私立であった。近くの宇和島市にはM29に蘭学の藩校明倫館の流れをくむ宇和島中学があった。以上から「旧学制時代を通じて」の

唯一の町とは言い難いが、設立時(T13)の時点では唯一の町立の中学と女学校を有する町であった。たぶん上記の通り新潟県相川町に直前のT12まで女学校があったので、情報等の不備から詳細がわからず、喧伝もしづらかったと推測される。町立中学は他の地域もおしなべて都会ではないが豊かで魅力的な土地柄から生まれた処と思われる。

(2) 野沢との中学誘致合戦は「後出しジャンケン」で負けた?

明治33年に上田中学佐久支校の設置を検討した際に、岩村田と野沢は競合し遂に誘致は南北の佐久郡対立を巻き込んだ争奪戦になったようである。それまで佐久の経済・行政の中心として

自負し、またそれ迄の経緯から岩村田が有利と思われたが、意外にも野沢に決まった。

〈おおまかな経緯〉

・M5長野県岩村田支所(県の行政の佐久の中心)
・M8師範予科校を岩村田に置く
(筑摩県併合前：他は長野、飯山、上田)

・M12佐久郡は南・北佐久郡に分裂
・M32初の県庁文書には「佐久中学校は岩村田が至当」記載されたものの、11月の通常県会を前に両郡の誘致条件が競わされ、その折には不成立となったが、翌年3月の臨時県会で野沢案が可決された。

その条件を確認すると
・野沢案…敷地町が提供、寄付金郡下町村1万円、拠出金1万円負担
・岩村田案…敷地町が提供、建設費の内5千円を地元拠出

どうも「後出しジャンケン」のように見える、野沢の好条件は県会直前の10月に急遽提出された一方、岩村田は既定条件のままであった。その背景には野沢の大地主で強力に野沢誘致を推進した並木和一貴族院議員(多額納税議員)の存在があったように思われる。

並木は貴族院の文教委員会でも他議員から地元で中学がないことをなじられたことによるとも、自身が松本中学の経験からとも言われるが、自身の土地や財産を提供し奔走して中学を誘致したようである。

(佐久市志「高校風土記」毎日新聞長野支局編より)

●筆者の推測する

岩村田が敗れた理由

①単純に地図上で野沢の方が中心に近

い…M33 当時は現在の信越線（しなの鉄道）はM21に上田～軽井沢間が開通した。小海線（佐久鉄道）の計画はあるものの開通していないので（T4／8小諸～中込、同年11～羽黒下、T8～小海）、北佐久の生徒は上田へ通えても、南佐久の生徒には岩村田通学は苦しい状況が見込まれた。

②小諸義塾が既にM32～中学教育課程を始めていた…その後義塾はM39に財政難から閉校に追い込まれるが、ちなみに当時小諸小学校長の佐藤寅太郎（本校創設者）の関与が疑われている。そのためか当時教師であった島崎藤村との不仲を窺わせる証言も多い。伝統主義の寅太郎にはミッシェン系私学への違和感か、県立中学誘致の障害になると考えたか。

③上記の並木議員主導の後出しジャンケン…流れを変える為に、今では信じられない好条件提供の競争させる誘致合戦に持ち込んだ政治手腕と寄付であった。

(3) 県下14番目の中学校へ

こうして結局戦前の大学等の高等教育に至る有為な人材を育てる旧制中学で本校は県下18校中14番目に設立された。（①表参照）

M33に野沢との誘致合戦に敗れた岩村田は明治後期の県下8校制から外れた。更に大正期に増設した県立5校（北信2校、中信2校、南信1校）にも外れたのだが、東信が1校もないのは、著しくバランスに欠けているように思える。（M25小県蚕業／上田東高、M43上田蚕糸専門学校

②長野県の旧制中学開校

順	現 校 名	開 校 年・校 名 変 遷 の あ ら ま し	備 考
1	松本深志	M9第十七番中学変則学校、松本中学、松本深志校	北・東・中・南信の各地区毎の4高制
2	上田	M15郡立小県中学、上田中学、上田松尾高	
3	飯田	M15郡立下伊那中学、飯田中学、飯田高松高	
4	長野	M16上水内郡立中学、長野中学、長野北高	
5	諏訪清陵	M28諏訪郡立実科中学、諏訪中学、諏訪清陵高	長野県8校制
6	大町岳陽	M34松本中学大町分校、大町中学、大町南高、大町高	
7	野沢北	M34上田中学野沢分校、野沢中学、野沢北高	
8	飯山	M36長野中学飯山分校、飯山中学、飯山北高	
9	伊那北	T9伊那中学、伊那北高	大正期の県立中学の増設
10	屋代	T11埴科中学、屋代中学、屋代東高	
11	松本県ヶ丘	T12松本第二中学、県ヶ丘高	
12	須坂	T12上高井中学、須坂西高	
13	木曾青峰	T13木曾中学、木曾西高	追加の町立・市立・組合立校
14	岩村田	T13町立岩村田中学、県立岩村田中、岩村田高	
15	長野市立	S15市立長野中学、長野市立高	
16	岡谷南	S16岡谷市立中学、県立岡谷南高	
17	松本美須々丘	S16松本市立中学、松本市立高校、県立松本美須々丘高	
18	望月(長野西通信)	S17組合立望月中学、川西高校、県立望月高	

信濃教育会 教育年表より抜粋

①佐久地区の戦前中等学校の動向

年	校 名
M26	小諸義塾開校
M32	小諸義塾中学課程開始
M33	蓼科実科補修学校（蓼高）開校
M34	岩村田実科補修学校（北農）開校
M34	上田中学野沢分校（野沢北）開校
M39	小諸義塾閉校
M39	小諸商工学校（小諸・小諸商）開校
M40	南佐久郡立乙種農学校（白高）開校
M40	郡立農学校小海分校（小海高）開校
M44	野沢実科高等女学校（野沢南）開校
T8	町立岩村田実科女学校開校
T13	町立岩村田中学開校
T15	望月実科女学校開校
S18	軽井沢高等女学校（軽高）開校

信濃教育会 教育年表より抜粋

り、その後、その後に続く追加の市立、組合立等の中学設立のさきがけのようになっ

き技師になったと聴いたが、白高と東京高等工芸学校（現千葉大工）へ行

校／信大繊維の関係もあるのか）しかしその外れた結果を見て遂に当時としては珍しい町立で本校は設立至

たように見える。

北佐久地区は中学誘致に破れた後、②表の通り寅太郎の意向もあり暫くは実業学校（北農、小諸商工等）に注力した後に多くの他校に遅れて本校は開校した。

(3) 岩村田の繁栄と町民の大きな負担

開校時、一次大戦時の好況もあり岩村田は繁栄したようである。江戸期に増えた広大な新田に加え、蚕糸業、交通の要衝として小海線も整備された。M23に追分から移転した遊郭（S15に閉鎖）、競馬場、劇場、鼻面稲荷等であり賑わっていたようである。その繁栄がT8の女学校とT13の中学の開校の基盤となったことは明らかである。

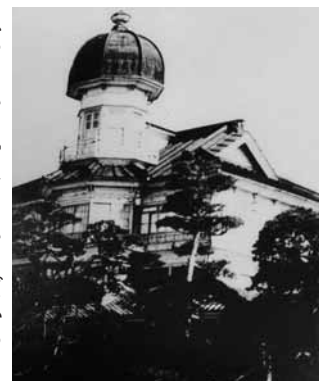
しかし維持経費の負担は重いものとなった。戦前住民の税金を元にした市町村の予算で教育費の殆どが賄われていた岩村田町の住民の多大な負担に敬意に値する。③表は筆者がたまたま図書館から借りた本にS9の南北佐久郡下の町村の予算が出たので数字を拾い比較してみた。やはり他の町に比べ岩村田の負担は著しく大きかった。また意外と教育費が大きかったのは中込である。調べてみると当時町立木工学校があった。筆者は中込出身であるが、有名な中込学校の隣にあったようだが全く知らなかった。確かに叔父（父の弟）二人が木工学校（町立中込実科補修学校）を出て、

③佐久地区の町の教育費（S9）データ

	人 口	総歳出	内教育費	総歳出に占める教育費比	住民一人当たりの教育費	備 考
	人	円	円	%	円/人	
岩村田町	7,561	133,288	79,857	60	11	町立中学・町立女学校・県立農学校
小 諸 町	15,433	169,158	58,819	35	4	県立商工学校・町立女学校
軽井沢町	5,659	108,095	25,805	24	5	なし
野 沢 町	6,848	63,282	29,392	24	5	県立中学・県立女学校
中 込 町	5,725	69,332	43,279	62	8	町立木工学校
白 田 町	3,964	48,857	23,249	48	6	組合立農産学校、町立女学校

(S9「佐久の大勢と出郷の人々」より抜粋)

思っていた。そういえばかつては周辺に幾つか木工の会社があったものだ、不明の至りである。次に設立時費用を調べると貨幣価値が違うがT8女学校設立総費用（約6千円）の内約30%が町税である。他は県郡補助金と授業料で賄った。寄付等の詳細は不明であるが、設立後の昭和初期の大不況の到来を考えると維持し続けた町民に頭が下がる。



明治22年建築の岩村田遊郭。当時岩村田は佐久地方の中心として繁栄し、遊郭も盛況をきわめた。

卒業生の皆さまへ 東都岩高会のご案内



ご卒業おめでとうございます。

東都岩高会は岩村田高等学校同窓会の関東地区（一都六県：東京、神奈川、埼玉、千葉、群馬、栃木、茨城）の支部組織で、本会会則の目的を達成する為、各種の活動をしており、ます。主な活動は下記の通りですので、気軽に参加して頂きたくお待ちしております。

①会報の発行と送付先について

- ・年1回5月頃に送付して総会&懇親会のご案内や本会の連絡事項及び皆様のご意見・情報・作品の交歓の場となっています。皆様の参加をお待ちしています。
- ・つきましては皆様への**新住所が決まり次第、以下のアドレス(又はQRコード)へ卒業年度、お名前、住所を記入の上、登録願います。**gansou100.jp/touto/



②総会&懇親会について

- ・幅広い年齢の多様な同窓生が集まります。**懐かしい友人や教職員との再会や、新たな繋がりへの巡り会いや、勉学・仕事・ときめきの出会いがあります。**
- ・議事は早々に、懇親会では**美味しい料理と生ビール・ワイン（未成年にはノンアルコール等）を堪能しながら、たくさん人達との交流をしながら抽選会や音楽を楽しんでください。**
- ・例年6月末頃に銀座の大通りに面したクラシックな建物のビヤホール（ライオン銀座7丁目店：銀座シックスの隣）が会場です。詳細は会報に掲載しますが、**学生（予備校・専門学校・院生含む）は無料**です。（詳しくは上記HPでご確認下さい）



③相談室のご案内

- ・故郷・肉親から離れて、初めての都会での一人暮らしは何かと心細いことと思われます。皆様の抱える問題や悩み事の多くは私達熟年会員が通り過ぎて来たことと重なります。**熟年会員の経験・知識・人脈等を活用して親身に皆様の相談に乗り、一緒に考えたいと思います。気軽にお声を掛けて下さい。**

◆相談機能

- 主に i) キャリア・進路相談：ご希望に沿い、そのご希望について知る限りの実態と適性への見解、そのご希望を叶えるには今何をすべきか？どう取り組むべきか？
- ii) 生活相談：住宅、パートナー、人生等

◆当面の相談スタッフ

現・元会社員、役員、経営者、税理士、弁理士、ジャーナリスト、元新聞記者、元国家公務員、元地方公務員、元教師等

◆窓口

事務局 田中伸明（副会長、S48年卒） 〒332-0012 埼玉県川口市本町 2-12-20-1001

TEL：048-222-2634 携帯：090-7171-8441 メールアドレス：tanaka-nsym@s5.dion.ne.jp

尚、個人情報守秘致します。

令和 4 年東都岩高会収支報告書

(自令和 4 年 1 月 1 日至令和 4 年12月31日)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	摘 要	金 額(円)	科 目	摘 要	金 額(円)
前期より繰越		1,542,776	通信費	会報発送費他	170,521
年会費収入	2000円／年 128名	256,000	印刷費	会報作成費	210,100
広告収入	会報広告 32名	129,000	交通費	母校同窓会参加他	9,100
総会収入	総会参加費	0	総会費		0
補助金収入	同窓会本部より	100,000	諸会費	本部、県連、東信	11,000
会議収入	参加者会費	0	会議費	編集会議、役員会等	41,149
受取利息	郵便貯金	8	支払手数料	振替、送金手数料	24,205
寄付金収入	会員寄付金	229,000	諸経費	用紙・雑費	7,566
合 計		2,256,784	合 計		473,641
			次期へ繰越		1,783,143

令和 5 年 1 月15日 会計(48年卒) 岡田 尚

監査報告

令和 4 年度の一般会計に関する帳簿、現金預金、証拠書類等について監査を行った結果、上記一般会計は適正にして正確に処理されていることを認める。

令和 5 年 1 月18日 監事 (37年卒) 市村 文雄 ㊞
監事 (37年卒) 柳澤 孝雄 ㊞

令和 5 年東都岩高会収支予算案

(自令和 5 年 1 月 1 日至令和 5 年12月31日)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	摘 要	金 額(円)	科 目	摘 要	金 額(円)
前期より繰越		1,783,143	通信費	会報発送・ホームページ	450,000
年会費収入	2000円／年 120名	240,000	印刷費	会報他	250,000
広告費収入	会報広告 30名	120,000	交通費	母校同窓会他	50,000
総会費収入	65名	520,000	総会費	令和 5 年 6 月	700,000
補助金収入	同窓会本部より	200,000	諸会費	本部・県連・東信	60,000
会議費収入	参加者会費	120,000	会議費	編集会議・役員会他	150,000
受取利息	郵便貯金	10	支払手数料	入金振替手数料	30,000
寄付金	会員寄付金	200,000	諸経費	用紙等	30,000
合 計		3,183,153	合 計		1,720,000
			次期へ繰越		1,463,153

令和 5 年 1 月15日 会計(48年卒) 岡田 尚

《注 東都岩高会の会費は、岩村田高校同窓会とは別です》																															
2022年 年会費納入者																															
卒年(昭和)氏名																															
長谷川 允子	清水 光男	木内 民雄	飯塚美恵子	31大澤 繁雄	生駒 友臣	柳澤 節夫	土屋 滋男	30馬場 淑子	岡村 基子	相澤 正昭	小林 央	磯貝タツエ	29中村 浩子	依田 秀雄	塩川 公子	古矢 功又	飯森 博	28中澤 巖	小平 晴雄	河野 仁邦	塩川 勝哉	金澤 清	小平 晴雄	27大井 康生	25工藤 孝雄	20浅沼 京子	19神津 武士	31町田喜四郎	黒沢長次郎		
白鳥 和明	小林 建	関本 好美	39赤沼 久雄	小平百合子	渡辺 順子	新海 博枝	山崎 浩二	38倉澤 隆司	中嶋 正明	市村 文雄	小林 昌弘	須江 節雄	37柳沢 孝雄	塚田 宣浩	木次 雅美	36勝俣 臣夫	35松山 曉美	34池田 房夫	青木 安弘	三戸 和子	関根 儀秋	山田 満慶	東 恭子	33吉田寿美子	小暮 節子	荻原 勝	32小林 好子	梅澤 邦子	浅沼ふみ江	秋山 桂一	
佐山 順子	平田 静枝	木内 俊雄	安川 満	杉澤 洋子	土屋 泰	高橋 邦美	土屋 建司	山浦 一義	神津 静男	荻原 久男	市村 直幸	彦坂 松江	43嶋田 一正	小林 久實	常田 三雄	高橋 建	中沢 真一	宮森 修一	42本間 計吉	柳沢 和俊	小泉日出男	41大崎 博	佐々木正行	柏木 慶永	田中 克己	金澤 和彦	依田 恵夫	高見澤好男	荻原 英雄	秋山 良一	40石井 誠

63 高橋 司	56 掛川 伸一	55 飯塚 完司	54 松本千恵美	53 大澤 徳子	52 池田 義則	50 中沢 弘	今井 豊治	新津 正弘	49 太田 豊子	田中 伸明	中山 郁雄	富澤 善幸	西田 篤実	佐藤 正継	小林 哲雄	48 岡田 尚	井出 洋二	中沢 朝幸	中澤 実夫	小林 裕	大塚 忠賢	47 細谷 卓	尾沼 啓子	三好 美晴	柳澤 武孫	45 加川 教宣	伊藤 依田美恵子	高橋 公雄	萩原 明	44 小林 亨
---------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	-------	-------	----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---------	-------	-------	-------	------	-------	---------	-------	-------	-------	----------	----------	-------	------	---------

38 小平百合子	38 倉澤 隆司	中嶋 正明	市村 文雄	須江 節雄	37 柳沢 孝雄	36 勝俣 臣夫	35 松山 曉美	34 池田 房夫	三戸 和子	関根 儀秋	33 東 恭子	梅澤 邦子	秋山 桂一	黒沢長次郎	長谷川允子	清水 光男	31 飯塚美恵子	30 柳澤 節夫	岡村 基子	29 相澤 正昭	塩川 公子	古矢 功又	飯森 博	28 中澤 巖	河野 仁邦	27 塩川 勝哉	20 浅沼 京子	19 神津 武士	卒年(昭和)氏名	2022年 寄付納入者
----------	----------	-------	-------	-------	----------	----------	----------	----------	-------	-------	---------	-------	-------	-------	-------	-------	----------	----------	-------	----------	-------	-------	------	---------	-------	----------	----------	----------	----------	----------------

56 掛川 伸一	55 山浦 武彦	54 飯塚 完司	52 柳沢 良治	50 中沢 弘	田中 伸明	西田 篤実	48 岡田 尚	井出 洋二	小林 裕	47 細谷 賢卓	尾沼 美晴	柳澤 武孫	45 加川 教宣	伊藤 明	杉澤 洋子	土屋 邦美	高橋 直幸	市村 一正	43 嶋田 三雄	常田 建	42 中沢 真一	小泉日出男	41 花里 昇助	佐々木正行	柏木 慶永	田中 克己	金沢 和彦	高見澤好男	40 石井 誠	関本 好美	39 赤沼 久雄
----------	----------	----------	----------	---------	-------	-------	---------	-------	------	----------	-------	-------	----------	------	-------	-------	-------	-------	----------	------	----------	-------	----------	-------	-------	-------	-------	-------	---------	-------	----------

【東都岩高会会費の納入及び賛助寄付のお願い】

東都岩高会の運営、会報発行などの経費は皆さんの会費で成り立っています
明日の東都岩高会を創るために積極的に参加してください

※郵便払込口座：00190-1-544091 加入者名：東都岩高会

2022年末に東都岩高会の ホームページを開設しました

- 岩高同窓会のサイドメニューから入れます。
また google 等の検索エンジンから直接「東都岩高会」と入力し検索すると入れます。
- 「総会＆懇親会」等のお知らせ・ご案内、東都岩高会報の閲覧、同会報の送付先の登録も直接出来ます。

ご活用下さい！



内外国特許・実用新案・意匠・商標(地域ブランド)・出願・審判・訴訟・鑑定

INTERNATIONAL PATENTS DESIGNS TRADEMARKS

大塚特許事務所

弁理士 大塚 忠 (昭和47年卒業)

〒105-0012 東京都港区芝大門2-12-6 ダイアパレス10階
TEL : 03-5472-5851 FAX : 03-6430-7851 E-mail : otsuka-p@ka2.so-net.ne.jp

東京都岩高会 役員体制

(2022年7月1日から2年間)

【会 長】	小林 裕(昭和47年卒)
【副 会 長】	大塚 忠(会計=47年卒・新任)／田中 伸明(総務=48年卒・留任)／岡田 尚(会計=48年卒・新任)
【監 事】	市村 文雄(37年卒・留任)／柳澤 孝雄(37年卒・留任)
【理 事】	相澤 正昭(総務=29年卒・留任)／梅澤 邦子(総務=31年卒・留任)／長谷川允子(総務=31年卒・留任) 安藤千恵子(総務=32年卒・留任)／三戸 和子(広報=33年卒・留任)／土屋 征江(総務=35年卒・留任) 小山 駿二(総務=35年卒・留任)／井出袈裟衛(総務=39年卒・留任)／岡本 好美(総務=39年卒・新任) 小林 正二(広報=40年卒・留任)／清原 直実(広報=42年卒・留任)／高橋 建(総務=42年卒・留任) 荻原 久男(総務=43年卒・留任)／荻原 明(総務=44年卒・留任) 中山 郁雄(総務=48年卒・留任)／栗橋 澄朋(総務=52年卒・留任)
【学年幹事】	池田たつ子(27年卒)／榎沢 利一(27年卒)／甘利 善市(29年卒)／柳澤 節夫(30年卒) 大澤 繁雄(31年卒)／宮澤 栄治(31年卒)／渡邊 吉則(34年卒)／松山 暁美(35年卒) 角田 和之(36年卒)／勝俣 臣夫(36年卒)／大井 仁(37年卒)／小林 昌弘(37年卒) 須江 節雄(37年卒)／渡辺 弘子(37年卒)／新海 博枝(38年卒)／山崎 浩二(38年卒) 渡辺 善一(39年卒)／青木 茂樹(39年卒)／荻原 英雄(40年卒)／大崎 博(41年卒) 小泉日出男(41年卒)／中澤 眞一(42年卒)／常田 三雄(42年卒)／荒井 伸一(42年卒) 平田 静枝(43年卒)／山浦 一義(43年卒)／石井 正裕(45年卒)／鈴木 則夫(45年卒) 尾沼 卓(45年卒)／岡部 勝(46年卒)／市村 守(46年卒)／井出 洋二(47年卒) 岡部 正武(47年卒)／柳田 泰敬(47年卒)／小林 哲雄(48年卒)／黒澤 公人(49年卒) 宮田志づ子(49年卒)／中澤 俊一(53年卒)／石塚 秀樹(61年卒)
【顧 問】	秋山良治郎(22年卒)／大井 康生(27年卒)／中澤 巖(28年卒)／中村 浩子(29年卒) 生駒 友臣(30年卒)／清水 光男(31年卒)／秋山 桂一(31年卒)／飯塚美恵子(31年卒) 柏木 慶永(40年卒)／土屋 泰(43年卒)
顧問 工藤孝雄様(25年卒)は、令和4年10月5日で逝去されました。謹んでお知らせ申し上げます。	

東京都岩高会 会 則

第 1 章 総 則

第 1 条 名称

本会は東京都岩高会と称する

第 2 条 長野県岩村田高等学校同窓会の下部組織である。

第 3 条 東京都岩高会は相互の親睦を図るとともに、健全な会の発展に資することを目的とする。
年 1 回の会員による総会の開催、会報誌の発行及び会に付随した行事等を行う。同窓会本部との連携を密にし、会の発展に努める。

第 4 条 東京都岩高会会員資格

長野県岩村田高等学校(旧制中学校、高等女学校)の卒業生であること。
東京都岩高会の範囲(1都6県=東京都、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川の各県)

第 2 章 細 則

第 5 条 会の役員構成及び運営

イ 会長 1 名／副会長 5 名以内

会計 2 名／監事 2 名

理事 20 名以内／学年幹事 50 名以内

顧問 (会長経験者もしくは会に貢献があった者で、役員会が承認した者)

第 6 条 機関・議決

イ の議決を行う機関として、総会及び役員会を置く

ロ 総会は会員で構成し出席者の多数決をもって議事を決する

ハ 役員会は会長、副会長、会計、監事、理事、学年幹事で構成し、出席者の多数決をもって議事を決する
会長が指名した書記は審議した内容の議事録を作成する

ニ 総会は会長が招集し、毎年 1 回以上開催して次の事項を決議する

(1) 年度事業報告及び決算報告

(2) 年度事業計画及び予算

(3) 改選時の会長の承認

(4) その他本会の運営に関する事項

第 7 条 役員の選出・任期

イ 選出 会長は役員会が選出する

会長以外の役員は役員会の承認を得て会長が委嘱する

ロ 任期 7 月 1 日から 2 年とする(但し再選を妨げない)

ハ 役員の分担

会長 会の運営

副会長 会長を補佐する

理事 会長・副会長を補佐し担当の任にあたる

会計担当 予算の立案、会費等の収納管理、金銭の出納、財産管理

総務担当 会の運営・企画進行

広報担当 会報の発行、会の普及宣伝

ニ 年会費 2000 円

ホ 会員は会の定めた方法に従い、会費を納入するものとする

第 8 条 その他

イ 会の運営は会長が主体になって役員会が行う

ロ 会長に不都合が生じた場合は副会長が会長の任務を代行する

ハ 役員改選により会長が交代した時は会則に則り、速やかに諸手続きを行うものとする

ニ 事務局を変更した時も上記「ハ」に準じる

ホ 諸届出、対外交渉等名称は「東京都岩高会」を使用する

付 則

会設立 昭和11年(1936年) 3 月10日

この会則は平成14年(2002年) 10 月から施行

改正 平成28年(2016年) 6 月19日から施行

東都岩高会の継続と なお一層の継続を願っています

名刺広告への協賛
ありがとうございました。

神津 武士
(昭和19年卒業)

〒385-0021 佐久市長土呂四一八

大井 康生
(昭和27年卒業)

〒363-0021 埼玉県桶川市泉二一三ー七
電話・FAX 〇四八七七八六二一〇四〇
携帯電話 〇九〇四〇九八八八九二四
メールアドレス yasuo-321@docom.ne.jp

飯森 博
(昭和28年卒業)

〒359-0005 所沢市神米金三五八ー五 A・三〇五
電話 〇四一四二九四二一六九六五

中澤 巖
(昭和28年卒業)

〒302-0022 茨城県取手市本郷五一ー一七
電話・FAX 〇二九七七一七二一六一九三
E-mail: naiw3419@silkiplala.or.jp

相澤 正昭
(昭和29年卒業)

〒270-1111 我孫子市古戸二五〇ー二九
電話 〇九〇七二四〇一八八八
E-mail: izawamsk@jcom.home.ne.jp

中村 浩子
(昭和29年卒業)

〒338-0837 さいたま市桜区田島四一三ー一〇
電話・FAX 〇四八八八六二一七四三
携帯電話 〇九〇七二〇二一四四七

生駒 友臣
(昭和30年卒業)

〒168-0064 杉並区永福一四〇一八
電話 〇三一二二七二七二〇五

仔馬の会 美恵明
主宰 (飯塚美恵子・昭和31年卒業)

〒396-0992 埼玉県さいたま市緑区大牧一四八〇一五
電話 〇四八八七四一〇一七六 FAX 〇一七
携帯電話 〇九〇四三七二一四一三
メール meismile-p-529@krndbiglobe.ne.jp

秋山 桂一
(昭和31年卒業)

〒272-0827 千葉県市川市国府台四一六ー一七
電話 〇四七一三七五二四五八

清水 光男
(昭和31年卒業)

〒178-0025 練馬区大泉町一三二ー二四
電話 〇三三三九二二一七九三九

長谷川 允子
(昭和31年卒業)

〒270-1514 千葉県印旛郡栄町酒直台二一八ー六
電話 〇四七六一九五三二一一

東 恭子
(昭和33年卒業)

〒354-0011 富士見市水子四九七四一五
電話・FAX 〇四九一二五一二一八一

三戸 和子
(昭和33年卒業)

〒182-0022 調布市国領町八二一九一三二〇五
電話 〇三一二四八〇一八二二

小山 駿二
(昭和35年卒業)

〒335-0001 埼玉県蕨市北町一九一三〇一〇五

土屋 征江
(昭和35年卒業)

〒124-0022 葛飾区奥戸二一九一ー二
電話 〇三三六九七一八三二二

松山 暁美
(昭和35年卒業)

〒183-0013 府中市小柳町五一八二二一三
電話 〇四二二二六五二四七四五

木次 雅美
(昭和36年卒業)

〒359-1153 所沢市上山口一六三二一ー二
電話 〇四二二二五二一三七九一

東都岩高会の継続と なお一層の継続を願っています

塚田 宣浩 (昭和36年卒業) 〒363-0024 桶川市鴨川一丁目一九一-三 電話 〇四八-七八六-七五五四	市村 文雄 (昭和37年卒業) 〒362-0041 上尾市富士見二丁目六-四 電話 〇四八-七七-一九三二二	柳澤 孝雄 (昭和37年卒業) 〒242-0005 神奈川県大和市西鶴間二丁目一五 電話 〇四六-二七四-九五六八	白鳥 和明 (昭和39年卒業) 〒140-0015 品川区西大井五丁目二-一 電話 〇八〇-四三五-二二〇〇九	井出 袈裟衛 (昭和39年卒業) 〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭五〇七-八 電話 〇四六-八八-五五九七	柏木 慶永 (昭和40年卒業) 〒359-1145 所沢市山口五〇六-三-一四八-一-二〇二 電話 〇四-一二九-二八-五七七三
小林 正二 (昭和40年卒業) 〒204-0021 清瀬市元町一丁目八七-二〇一 電話 〇四二-四九二-二六-一八	株式会社佐々木工業 代表取締役 会長 佐々木 正行 (昭和40年卒業) 〒385-0051 長野県佐久市中込三三六-八 電話 〇二六-七-一八二〇(代)	高橋 建 (昭和42年卒業) 〒365-0064 埼玉県鴻巣市赤見台三丁目三六-五 電話 〇九〇-九三-一八六三〇 Email: ken230518@jcom.nag.ne.jp	萩原 久男 (昭和43年卒業) 〒182-0006 東京都調布市西つばけ丘二丁目二〇-一八 電話 〇三-五二八-四九-五三六 http://jpva.org/	NPO法人日中青少年国際交流協会 理事長 高柳 徹 (昭和43年卒業) 〒104-0053 中央区晴海三丁目二二-二二 電話 〇三-六二〇-四九-九四九 http://www.jcya.or.jp	土屋泰税理士事務所 土屋 泰 (昭和43年卒業) 〒160-0004 新宿区四谷二丁目九 サンサラー四谷四〇二 電話 〇三-五三一-一五八五一
安川 満 (昭和43年卒業) 〒270-0143 流山市向小金三丁目二八-一九	大聖院 伊藤教宣 (昭和44年卒業) 〒327-0837 佐野市植野町一八五六	三機パートナーズ株式会社 保険部長 小林 裕 (昭和47年卒業) 〒104-6591 東京都中央区明石町八-一 聖路加タワー41階 電話 〇三-六三六-七-七七四三 E-Mail: yutaka_kobayashi@engsanri.co.jp	田中 伸明 (昭和48年卒業) 〒332-0012 川口市本町二丁目二〇-一〇〇一 電話 〇四八-二二二-二六三三 メール: tanaka-nsym@sb.dion.ne.jp	中山 郁雄 (昭和48年卒業) 〒135-0043 東京都江東区塩浜一丁目三三-二九 電話 〇三-五六三-二二〇七 携帯 〇八〇-四一六-四七九七 E-mail: nakayama-gyorui@ahoco.co.jp	株式会社 武蔵屋 取締役副社長 小林 哲雄 (昭和48年卒業) 〒337-0051 埼玉県さいたま市見沼区東大宮四二九-一 電話 〇四八-六六三-七〇三七 FAX 〇四八-六六七-四一四四

◆2022年～2023年 東都岩高会活動記録◆

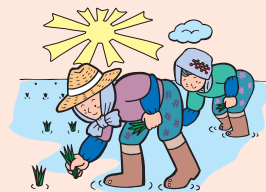
◎東都岩高会 △岩高同窓会(本部) ◇長野県高等学校同窓会東京連合会 □東信同窓会連合会

2022年

1月23日 ◎新年役員会(中止)
1月 △新年役員会・新年会(中止)
2月5日 ◇新年懇親会(中止)
2月18日 ◎同世代のつどい(延期)
3月2日 △卒業証書授与式
4月6日 △入学式
4月28日 △春季役員会
5月1日 ◎会報第38号発行
5月12日 ◇□常任理事会・理事会
6月 ◎2022年総会・懇親会(中止)
6月25日 △定期総会・三役会
7月2日 ◇第58回定期総会(中止)
7月17日 ◎会報編集委員会(ばるーん)
8月21日 ◎役員会(ばるーん)
11月4日 ◎同世代のつどい(新宿)
11月15日 □秋季イベント
11月20日 ◎役員会(ばるーん)

2023年

1月22日 ◎新年役員会(ばるーん)
2月4日 ◇新年懇親会(アルカディア市ヶ谷)
2月24日 △三役会
3月1日 △卒業証書授与式
4月6日 △入学式
4月7日 □観桜会
4月28日 △4月春季役員会
5月1日 ◎会報第39号発行
6月18日 ◎2023年総会・懇親会
(ライオン銀座七丁目店)
(新型コロナウイルス対策のため、会報委員会等
は主にメールにて活動を行いました。)



■寄稿募集

読むのは楽しい。書いて活字になるのはもっと面白い!!

本誌を会員の皆様の楽しみにしたいと考えています。お気軽に記事の寄稿をお待ちしています。

- ・内 容：一切問わず自由。(但し、他者へ差し障りのある場合は修正させていただきます。)
- ・原稿及び写真：名前、在住地、卒業年度を明記して1,500文字が標準ですが、増減は構いません。ワード等のデータが望ましいですが、手書きに写真添付でも結構です。
尚、顔写真なしの「お薦めスポット」文字数350位也大歓迎です。
- ・締 切：毎年2月末日迄
- ・宛先・問合せ：〒332-0012 川口市本町2-12-20-1001 TEL.090-7171-8441、田中宛
メール:tanaka-nsym@s5.dion.ne.jp アドレスへデータ送信がベストですが、郵送も結構です。
尚、万が一多すぎた場合、次回以降の掲載へ回ることもありますのでご了承下さい。

夢・感動の花を咲かせたい。



渡良瀬遊水池

●総合印刷 ●出版 ●熱気球他体験事業

東企画

めぐみ

代表 中沢 朝幸
(高24回・昭和47年卒)

〒385-0003 長野県佐久市下平尾1492の8
TEL 0267-68-5433 FAX 67-6900
Email:mgu_sky@ybb.ne.jp